KAWAI

DIGITAL PIANO

# DP1

# 取扱説明書

●同梱品

- □ 本体
- □ 譜面台
- □ 椅子
- □ 電源コード
- □ 取扱説明書（本書）
- □ 保証書
- □ ご愛用者カード
- □ アフターサービスと音楽教室のご案内

このたびはKAWAIデジタルピアノDP1をお買い求め頂きまして誠にありがとうございます。
DP1は、長年のピアノ作りで培われた伝統の職人技と最新テクノロジーが組み合った革新的な鍵盤楽器です。
DP1の性能をフルに発揮していただくとともに、いつまでも末永くご愛用いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読み下さるようお願い致します。
また、必要に応じて読めるように常時保管くださるようお願いします。

# 目次


◆安全上の注意 …… 4
DP1の主な特徴 …… 6
演奏してみましょう …… 7
　1．演奏してみましょう …… 7
　2．ペダル …… 8
　3．コントロールパネル …… 8
　4．音量の調節 …… 9
　5．ヘッドホン …… 9
　6．音色の選択 …… 10
　7．演奏の終了 …… 11
　8．スタンバイ電源を切る …… 11
　9．トップボードの開閉 …… 12
　10．譜面台を取付 …… 12
アドバンストプレイ …… 13
　1．4つのパラメーター調整 …… 13
　2．デュアルモード …… 14
　3．スプリットモード …… 15
　4．メトロノーム …… 16
　5．トランスポーズ …… 16
アンビエンス …… 17
　1．リバーブ/定位設定 …… 17
サウンドエディット …… 18
　1．トーン …… 18
　2．EFX …… 19
　3．セッティング …… 20
　4．サウンドのセーブ …… 21
レコーダー …… 22
　1．プレイバック …… 22
　2．レコーディング …… 24
　3．パートセッティング …… 25
　4．オーディオパートとパート削除 …… 25
　5．ソングのセーブ …… 27
システム …… 28
　1．マスターパラメーター …… 28
　2．ユーザータッチカーブの作り方 …… 29
　3．ファイル操作 …… 30
　4．アウトプット設定 …… 33
　5．ディスプレイ設定 …… 35
　6．MIDI Global …… 35
付録 …… 36
　◇外部接続端子 …… 36
　◇主な仕様 …… 38
　◇MIDI IMPLEMENTATION CHART …… 39

# ◆安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使い下さい。
ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守って下さい。表示と意味は次のようになっています。製品本体に表示されているマークには次のような意味があります。

注　意
感電の危険あり
本体をあけるな

注意：火災や感電防止のため、本体を雨や湿気の多いところに、さらさないで下さい。

このマークは、感電の危険があることを警告しています。

このマークは、注意喚起シンボルです。取扱説明書等に、一般的な注意、警告の説明が記載されていることを表しています。

| | |
|---|---|
| ⚠ 警告 | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容が記載されています。 |
| ⚠ 注意 | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容が記載されています。 |

絵表示の例

△記号は注意（用心してほしい）を促す内容があることを告げるものです。左図の場合は「指を挟まないよう注意」が描かれています。

○記号は禁止（行ってはいけない）の行為であることを告げるものです。左図の場合は「分解禁止」が描かれています。

●記号は強制（必ず実行してほしい）したり、指示する内容があることを告げるものです。左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜く」が描かれています。

## ⚠ 警告

### ◆電源は、必ずAC100Vを使う
100V以外禁止

●電圧の異なる電源を使用しないで下さい。
●発火の恐れがあります。

### ◆付属の電源コードは本機でのみ使用する
●付属の電源コード以外を本機で使用しないでください。
●付属の電源コードを他の機器で使用しないでください。

### ◆水に濡れた手で、電源プラグを抜き差ししない
濡れた手で触らない

●感電の原因になります。

### ◆水がかかる場所で使用したり、水に濡らす（つける，かける，こぼす）などしない

●漏電によって、感電や発火の原因になります。

### ◆本機を落とさない
落とさない

●運搬の際は、必ず2人以上で運んで下さい。

### ◆イスは次のように使用しない
使用しない

●イスで遊んだり、踏み台にしない
●イスには2人以上で座らない
●イスの高さ調節は、イスから降りて行う（調節機能付きの場合）
●イス組立時、ネジをしっかり締める

●イスが倒れたり、指をはさむ恐れがあり、けがの原因になります。
●不安定な場所に置かないでください。
●長時間使用してイスのボルトがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。

### ◆ヘッドホンは、大音量で長時間使用しない
長時間使用禁止

●聴力低下の原因になる恐れがあります。

### ◆本機を分解、修理、改造しない
分解禁止

●故障、感電、ショートの原因になります。

### ◆電源プラグを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜く
プラグ部分を持つ

●コードを引っ張るとコードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

### ◆長時間使用しない時は必ず電源プラグを抜く
プラグを抜く

●落雷時に火災の原因になります。

## ⚠注意

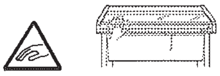
◆本機を次のような所では使用しない
●窓際など直射日光の当たる場所
●暖房器具のそばなど極端に温度の高い場所
●戸外など極端に温度の低い場所
●極端に湿度の高い場所
●砂やホコリの多い場所
●振動の多い場所

使用禁止

●故障の原因になります。

◆鍵盤蓋は、ゆっくりしめる

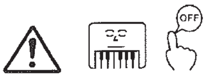
ゆっくりしめる



●いきおいよくしめると、指をはさみ、けがの原因になります。

◆コード類を接続するときは、各機器の電源を切って行う

電源を切る




●本機や接続機器の故障の原因になります。

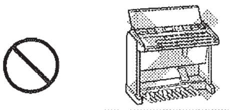
◆本機の内部に異物を入れないようにする

異物を入れない

●水、針、ヘアピン等が入ると、故障やショートの原因になります。

◆本機の鍵盤にもたれない

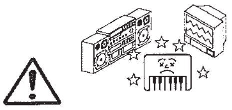
もたれない



●本体が倒れる恐れがあり、けがの原因になります。

◆テレビやラジオ等の電気機器の側に置かない

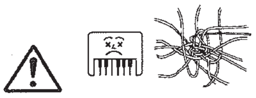
他電気機器から離す



●本機が雑音を発する恐れがあります。
●本機が雑音を発したら、他の電気機器から十分に離すか、他のコンセントをご利用下さい。

◆電源コード、接続コード類は本体で踏んだりからまないように接続する

からまないようにする



●コードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

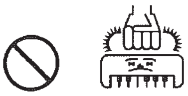
◆ベンジンやシンナーで本機を拭かない

ベンジン／シンナー禁止

●色落ちや、変形の原因になります。
●清掃するときは、柔らかい布をぬるま湯につけて、よく絞ってから拭いて下さい。

◆本機の上に乗ったり、圧力を加えない

上に乗らない



●変形したり、倒れる恐れがあり、故障や、けがの原因になります。

◆本機を移動するときは引きずらない

引きずらない

●移動の際は、必ず持ち上げて運んで下さい。引きずって移動すると、本体を破損する恐れがあります。

●ヘッドホン使用時、または音量下げて演奏の際は、構造上打鍵音（メカニズム音）が若干聞こえますが異常ではありません。ご了承ください。

●パネル上のディスプレイには、あらかじめ保護用の透明シートが貼り付けてありますので、はがしてからご使用下さい。

### ■保証書について

●本製品をお買い求めの際、販売店で必ず保証書の手続きを行って下さい。保証書に販売店の印やお買い上げ日の記入が無い場合は、保証期間中でも修理が有償になることがあります。

●保証書は、本取扱説明書と共に大切に保管下さい。

### ■修理について

●万一異常がありましたら直ちに電源スイッチを切り、本機の電源プラグを抜いて、購入店または弊社へご連絡下さい。

# DP1の主な特徴

DP1は伝統的でシンプルかつハイテクの革新的な電子グランドピアノです。

## アクティベイティング タッチ コントロール パネル

ピアノのように、鍵盤蓋を開けるだけで演奏できます。アクティベーターを押されるまではDP1のコントロールパネルは見えせん。アクティベーターを軽くタッチすると、コントロールパネルが現れます。

## アコースティックタッチ鍵盤

グランドピアノのタッチをリアルに再現するDP1の"AWAグランドプロ II"はタッチとコントロール性に大変優れています。

## かつてない精巧な音色

最新の技術を採用して、DP1はかつてないコンサートグランドピアノの音を出します。
その一方で、ストリングやベースなどの表情豊かな音も内蔵しています。

## リアリスティックアンビエンスのサラウンドシステム

DP1はグランドピアノの奥深い音場を再現可能な5.1チャンネルサラウンド・システムを搭載しています。 そのうえ、インテリジェントなアンビエンス機能を通じて、演奏者は多くの演奏やリスニング環境をシュミレートすることができます。

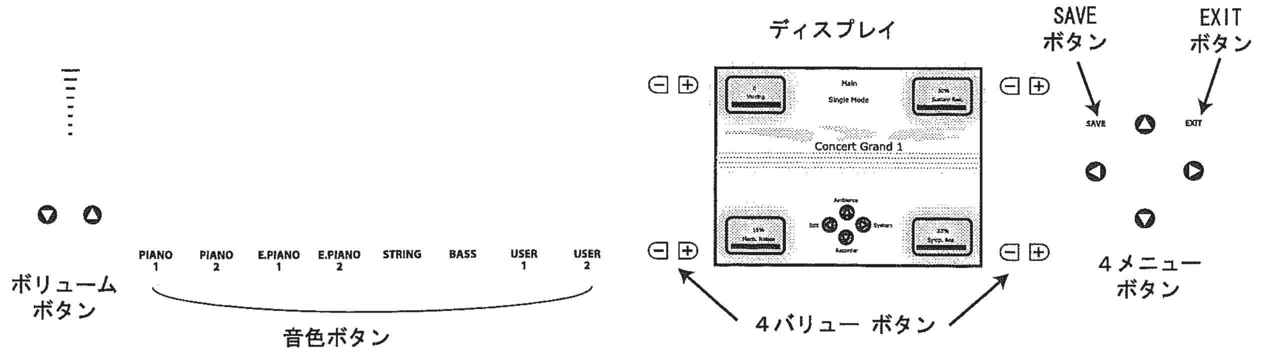
## MP3オーディオ対応のレコーダー

DP1のレコーダーは、２トラックで内部に１００ソングまで記憶可能です。録音したものはMP3オーディオとしてセーブでき、USBメモリにもセーブすることができます。 また、DP1はMP3オーディオの再生が可能ですので、レッスンなどにも便利です。

•*MPEG Layer-3 audio coding technology licensed from Fraunhofer IIS and Thomson.*

•*This digital piano uses the 'Puppy Linux' kernel and GNU utilities for its operating system.*
*Further information about this software can be found at http://www.puppylinux.com.*

## パネル各部の名称

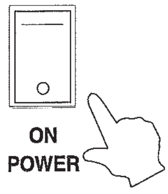


# 演奏してみましょう



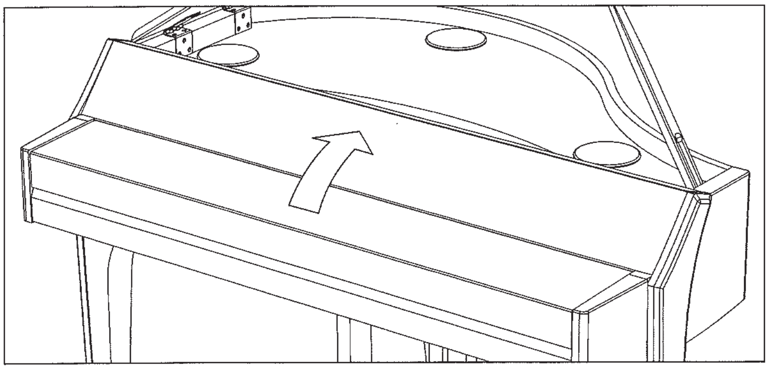
## 1.　演奏してみましょう

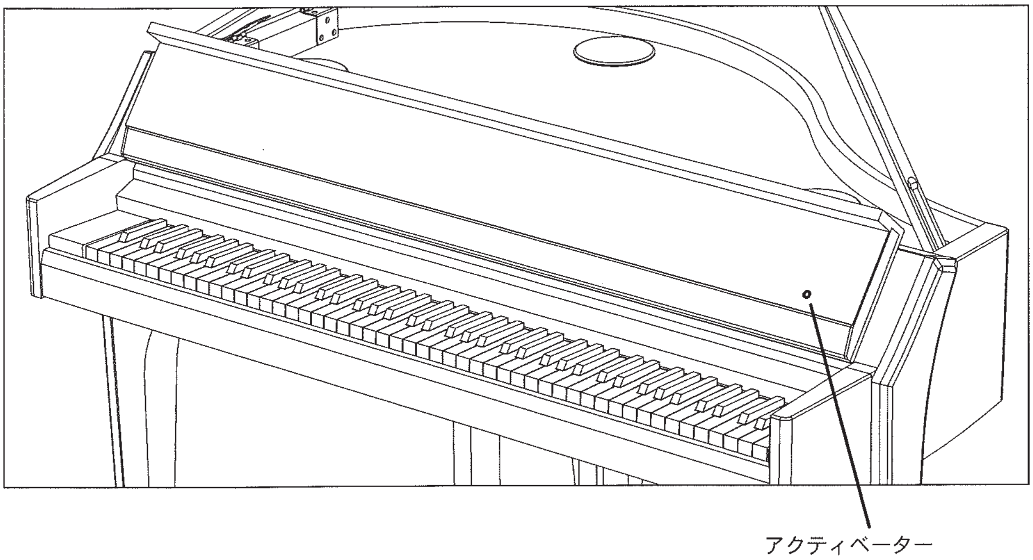
DP1のジャックパネル（左後方の底面）にある電源スイッチ入れスタンバイ状態にします。




（1）　電源オンするために鍵盤蓋を開けます。
DP1のオペレーティングシステムのロード終了まで1分間程お待ちください。この間は、パネル右端のアクティベーターがゆっくり点滅し、ロード終了で点灯となります。

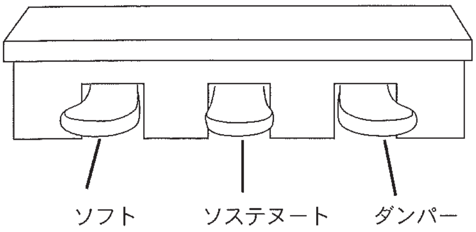
（2）　鍵盤を演奏します。コンサートグランド１の音色が聞けます。





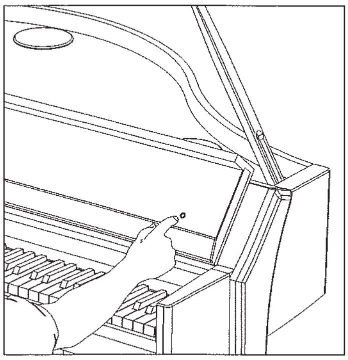
## 2. ペダル

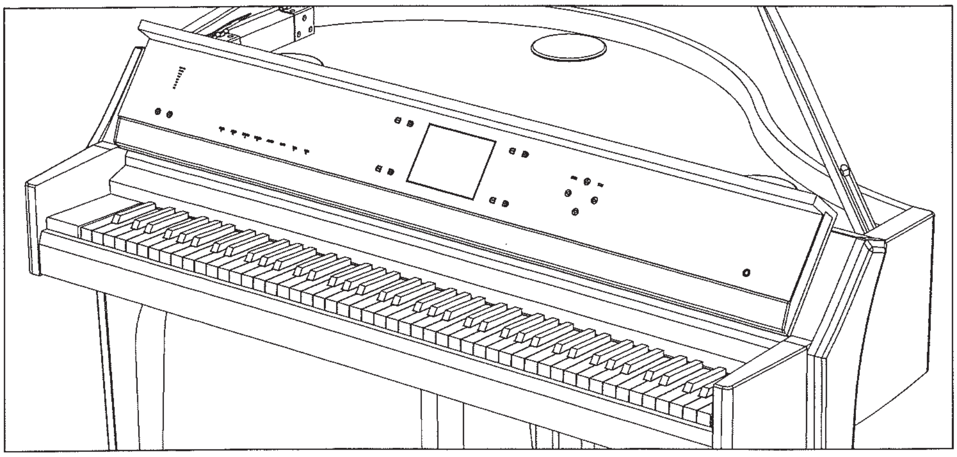
DP1はグランドピアノと同様に、ダンパー、ソステヌート、ソフトの3本のペダルがあります。
ダンパーペダルはハーブペダルに対応しており、ダンパー効果の細かいコントロールが可能です。



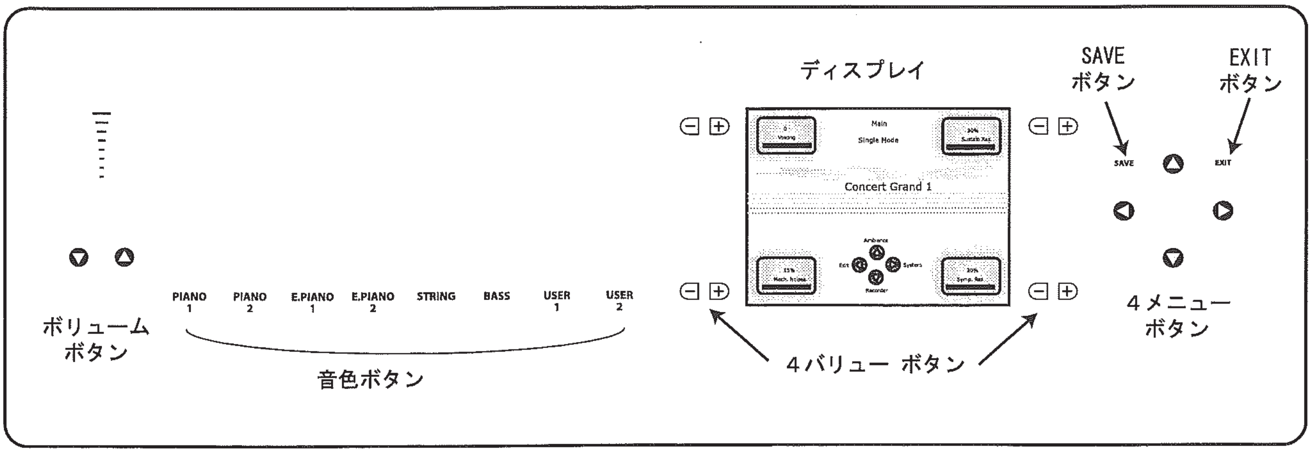

## 3. コントロールパネル

前面パネルの右端にあるアクティベーターボタンに触れてください。
メインディスプレイと数々のボタンが現れます。もう一度アクティベーターボタンを触るとそれらが消えます。
DP1のボタンはタッチスイッチ式ですので、押さなくても触れば操作可能です。但し、本書内では触ることを"押す"と表現します。





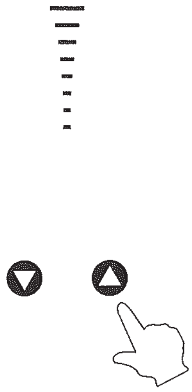
コントロールパネル起動時は下図のボタンが見えています。この取扱説明書ではこれらを下記に示す名称で扱います。
ボリュームボタン、音色ボタン、４バリューボタン、ディスプレイ、SAVEボタン、EXITボタン、４メニューボタン

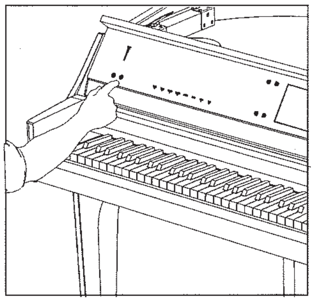



## 4. 音量の調節

鍵盤を弾いて、音量を調節してください。

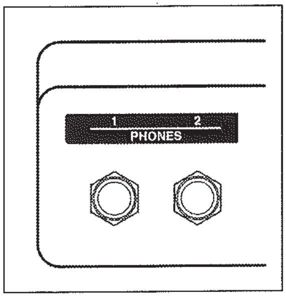
▲ボタンで音量が上がり、▼で音量が下がります。

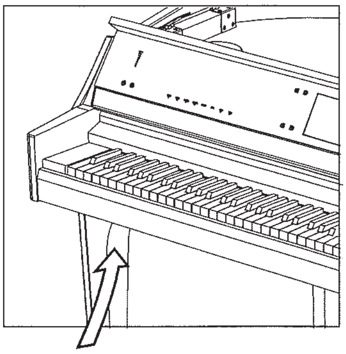




## 5. ヘッドホン

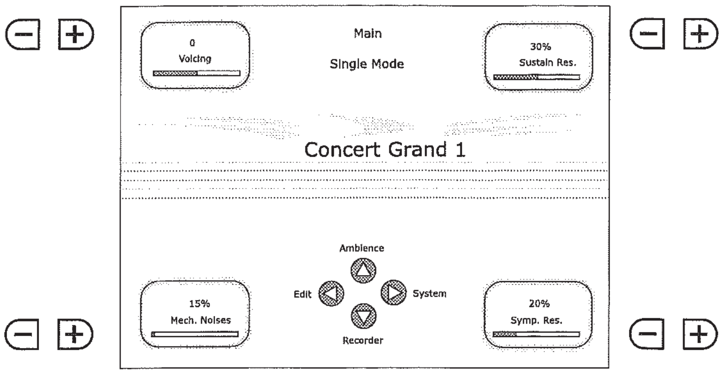
DP1には2つのヘッドホン端子があります。２つのいずれかにヘッドホンを接続すると自動的にスピーカーは切れ、ヘッドホンからのみ音が聴こえます。



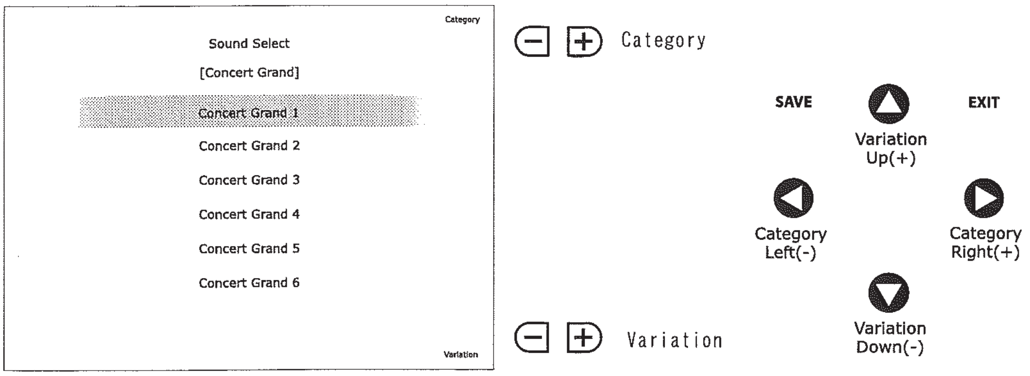
# 6. 音色の選択

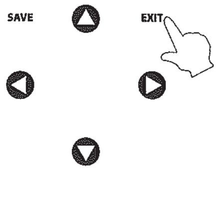
DP1は、ピアノだけでなく、様々な音色があり、全部で３６の音色があります。
DP1に内蔵されている多様な音色をプリセットと呼びます。全てのプリセット音色は、最新デジタルサンプリング技術により自然でリアルに仕上げられています。



（１）　演奏したい楽器のカテゴリーボタンを押します。押せば、ディスプレイにバリエーションリストが表示されます。
（２）　バリエーションを選びましょう。
再度、同じサウンドボタンを押すと、そのサウンドボタンにある次のバリエーション音色が選ばれます。あるいは、ディスプレイにリストが出ている間に、下記に示すように、2つのバリューボタンかメニューボタンを使っても選択できます。

（３）　メイン画面に戻る。
EXITボタンを押せば音色バリエーションリスト画面からメイン画面に戻ります。又、EXITボタンを押さなくても、しばらくすると自動的にメイン画面に戻ります。

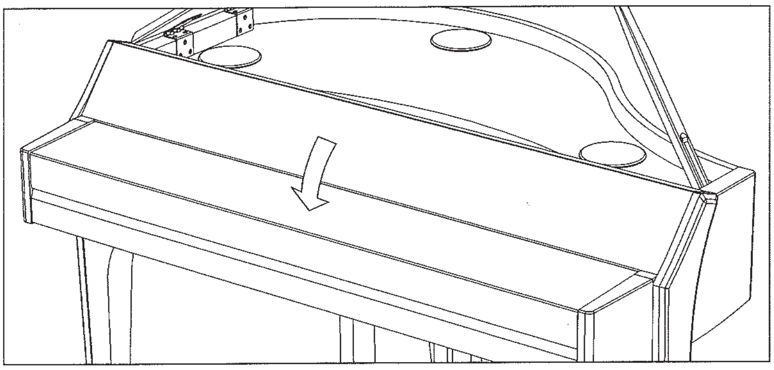


# 7. 演奏の終了

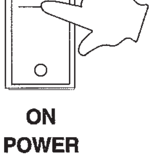
DP1の演奏が終了したら、鍵盤蓋を閉めてください。
自動的にスタンバイ状態になります。
あるいは、アクティベーターボタンを5秒位押し続けるとスタンバイ状態になります。又、再度5秒位押し続けると演奏状態になります。

注意：鍵盤蓋を閉める際、指を挟んだり、けがの可能性がありますので、ゆっくり閉めてください。



# 8. スタンバイ電源を切る

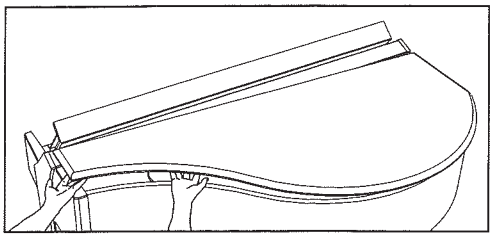
スタンバイ電源を切る時は、ジャックパネル（DP1底部）にある電源スイッチを切ります。長時間使用しない時には、電源を切り、電源ケーブルを抜いておいてください。



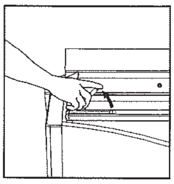
# 9. トップボードの開閉

DP1のサラウンド音スピーカーシステムの豊かな効果を最大限にするには、トップボード（天板、屋根）を開けます。
開けた状態にするには、突揚棒（長/短）で支持してください。

(1)　トップボードの右側をゆっくり持ち上げます。

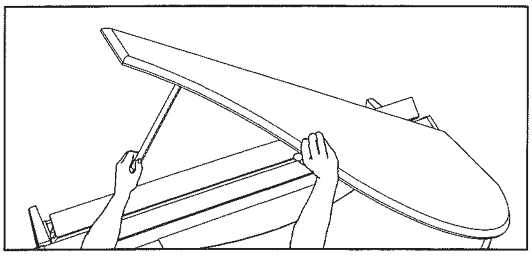


(2)　トップボードを上げたままで、突揚棒（長/短）を起こします。



(突揚棒)

(3)　突揚棒の先端をトップボードの裏面にある受けに合わせてください。長い突揚棒は内側の受けに、短い突揚棒は外側の受けに合わせてください。



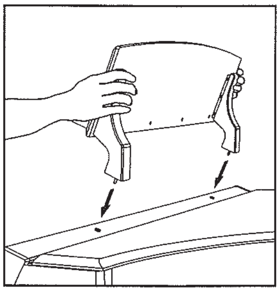
注意：トップボードを開け閉めするとき、手や顔をはさむなどけがをしない様ゆっくり行い十分注意してください。
又、トップボードを開けた状態でDP1本体を移動しないでください。トップボードが落ちてけがをする可能性があります。

# 10. 譜面台の取り付け

楽譜を使用する際には、譜面台を取り付けてください。

(1)　最初に、譜面台のピンが下になるように譜面台をもってください。

(2)　次に、譜面台の左右のピンをDP1の上面にある穴に挿入します。
それぞれの穴に確実に挿入してください。



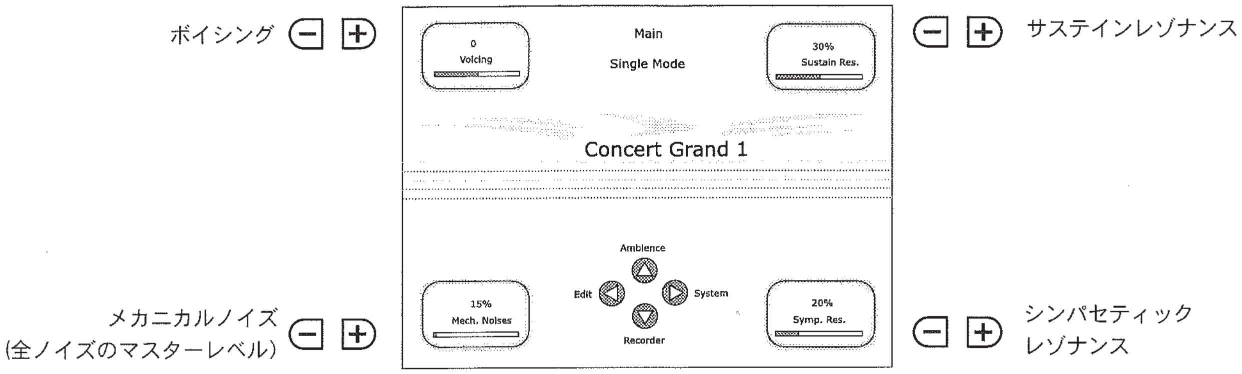
# アドバンストプレイ



## 1.　4つのパラメータ調整

それぞれの音色は4バリューボタンで簡単に調整できます。
４つのパラメータは各音色に最適なパラメータが選択されております。

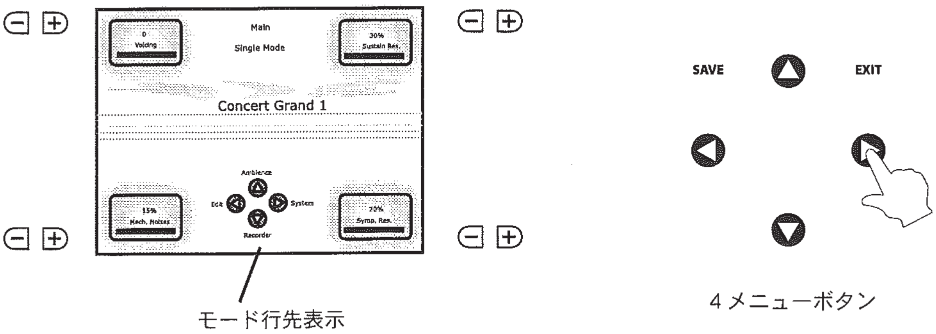
例えば、コンサートグランド１の場合、下記の4つのパラメータが現れます




### 4つのメニューボタンで他のモードへ移る

他のモードへ行くには、メニューボタンを使います。メニューボタンが使える時は、ディスプレイに４つそれぞれの行き先表示が出ます。

それぞれの行った先でも4つの調整パラメータがあります。

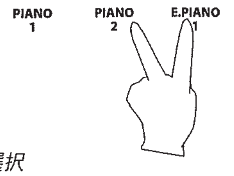


# 2. デュアルモード

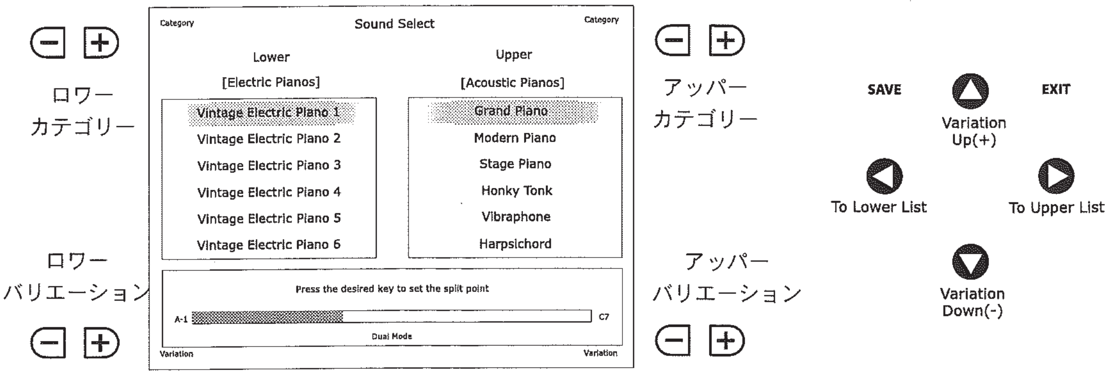
デュアル機能は、2つの音色を重ね合わせる機能です。

(1) 選びたい音色を押し続けます。
最初の音色が選択され、最初（アッパー）のバリエーション音色リストがディスプレイに表示されます。

(2) もうひとつの音色ボタンを押します。
2番目（ロワー）の音色が選択され、最初と2番目のバリエーション音色リストがディスプレイに表示されます。
これでデュアルモードとなります。

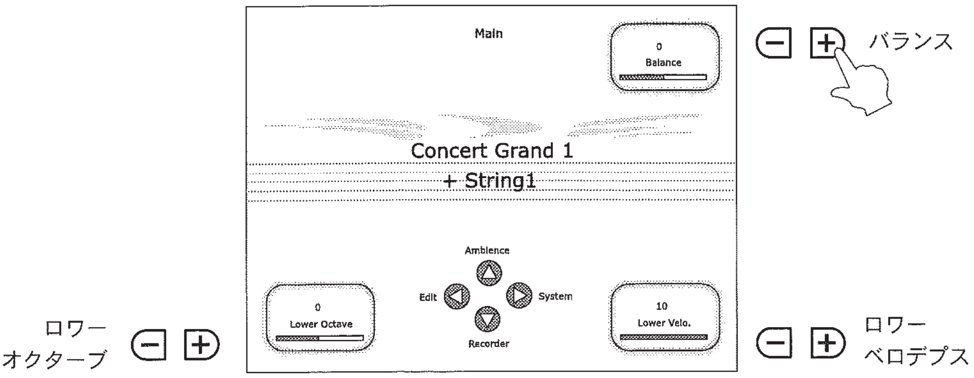



(3) *バリエーションの選択*
リストが表示中に、同じボタンを再度押すと次のバリエーションが選択されます。メニューボタンでもアッパーとロワーのバリエーション音色は変更できます。
さらに、左側の4つのバリューボタンでロワー音色、右側の4つのバリューボタンでアッパー音色の変更ができます。




(4) *メイン画面へ戻る*
EXITボタンを押すか、しばらくすると自動的にメイン画面へ戻ります。

(5) *デュアルバランスを調整する*
2つの音色の音量バランスを調整するには、"Balance"と表示してあるバリューボタンを押します。
"LowerOct"と"VeloDepth"のバリューボタンを使って、ロワー音色のオクターブ調整、ベロシティーデプス（タッチセンシティビティー）が調整できます。

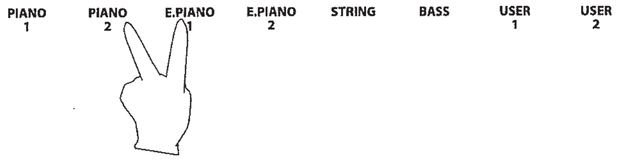


# 3. スプリットモード

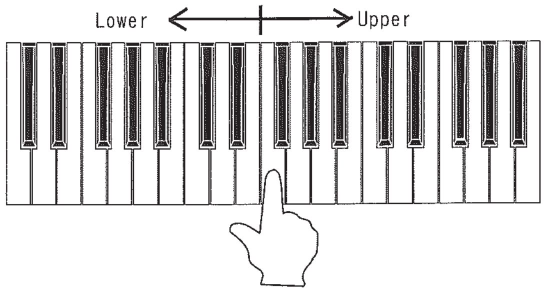
スプリット機能は、鍵盤を左右、アッパーとロワーの2 つに分け、それぞれに別々の音色で演奏をする機能です。

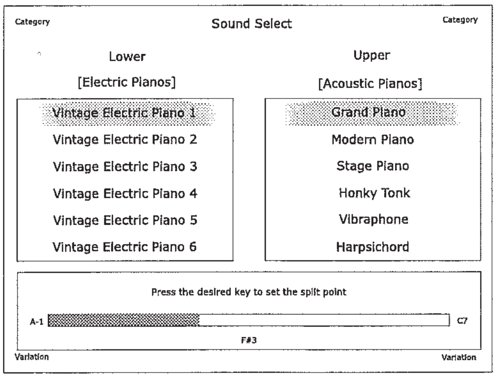
(1)　選びたい音色を押し続けます。
最初の音色が選択され、最初（アッパー）のバリエーション音色リストがディスプレイに表示されます。

(2)　もうひとつの音色ボタンも押し続けます。
2番目（ロワー）の音色が選択され、最初と2番目のバリエーション音色リストがディスプレイに表示されます。




(3)　*スプリットポイントを指定します。*
2つの音色を押している間に、スプリットポイントを鍵盤で弾いて指定します。
これでスプリットモードとなります。

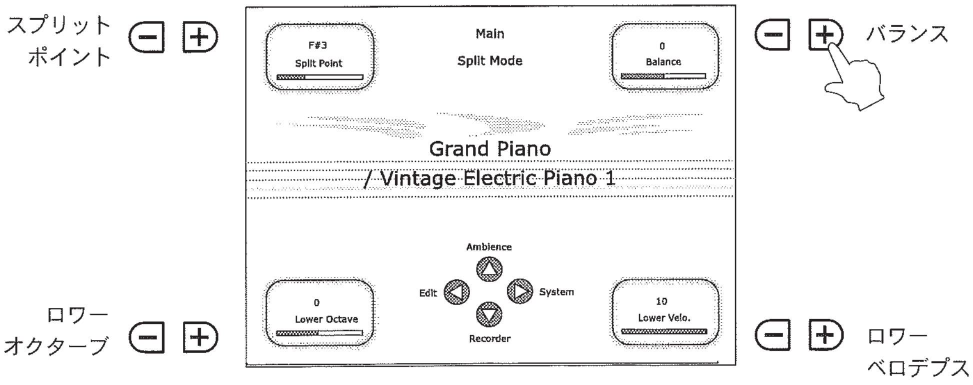



(4)　*バリエーションの選択*
リストが表示中に、同じボタンを再度押すと次のバリエーションが選択されます。
メニューボタンでもアッパーとロワーのバリエーション音色は変更できます。
さらに、左側、右側の各々の4つのバリューボタンでロワー音色、アッパー音色を変更できます。

(5)　*メイン画面へ戻る*
EXITボタンを押すか、しばらくすると自動的にメイン画面へ戻ります。

(6)　*スプリットバランスを調整する*
スプリットポイントを変更するには、"Split Point"表示のあるバリューボタンで変更します。
2つの音色の音量バランスを調整するには、"Balance"と表示してあるバリューボタンを押します。
"LowerOct"と"VeloDepth"のバリューボタンを使って、ロワー音色のオクターブ調整、ベロシティーデプス（タッチセンシティビティー）が調整できます。



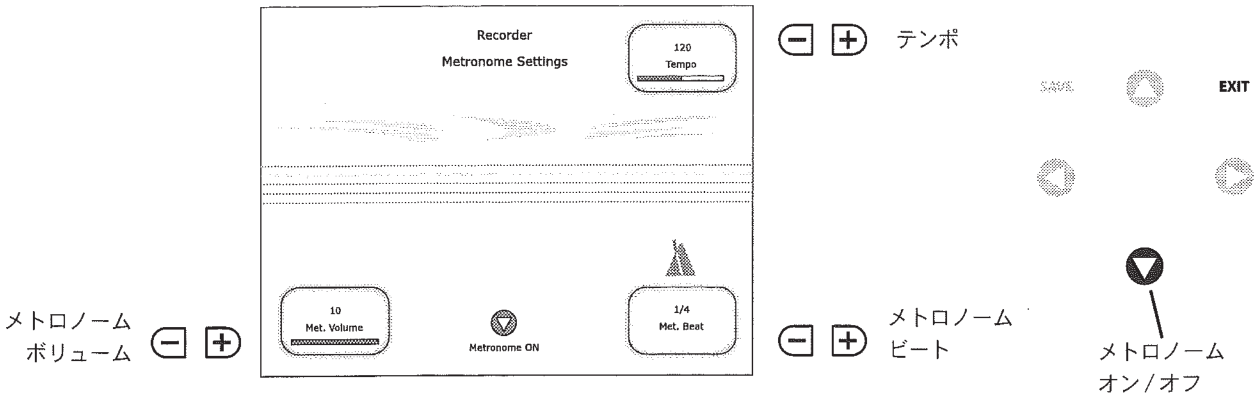
# 4. メトロノーム

DP1のメトロノーム機能は、ソング録音などで一定のビートに合わせて演奏するなどの助けになります。但し、メトロノームの音は録音されません。

(1)　*"Recorder"画面に進みます。*
"Recorder"表示の▼メニューボタンを押します。

(2)　*メトロノームセッティング画面に進みます。*
'Metronome Settings'. 表示の▲メニューボタンを押します。

(3)　*メトロノームをスタートさせる。*
'Metronome ON'. 表示の▼メニューボタンを押します。




(4)　*メトロノームの拍子を変更する。*
右下のバリューボタンを使って望みの拍子を選択します。

(5)　*メトロノームのテンポと音量を調節する。*
右上のバリューボタンを使って望みのテンポにします。
左下のバリューボタンを使って望みの音量にします。

(6)　*メトロノームの停止。*
'Metronome OFF'表示の▼ メニューボタンを押します。

(7)　*メイン画面へ戻る*
2回EXITボタンを押せばメイン画面へ戻ります。

# 5. トランスポーズ

トランスポーズ機能は、DP1を半音単位で調を変えることができます。
調の異なる楽器とのアンサンブル演奏や歌の伴奏をするときに、弾く鍵盤を変えずに簡単に移調できます。

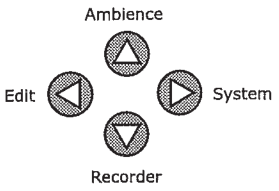
(1)　*システムメニューに行きます。*
'SYSTEM'表示の▶メニューボタンを押します。

(2)　*移調の量を指定します。*
左上のバリューボタンを使って、移調値を指定します。この値は自動的に記憶されます。

# アンビエンス

DP1のアンビエンス効果は、よりリアルな演奏環境を作り出すため5.1チャンネルサラウンドシステムを使って様々なリバーブや定位の効果を演奏者に与えます。

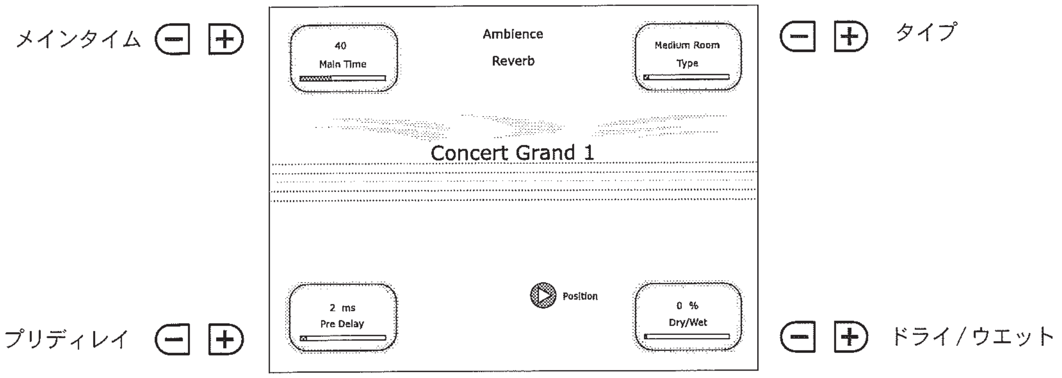
メイン画面からアンビエンスモードに行くにはAmbience'表示の▲メニューボタンを押します。




## 1. アンビエンス

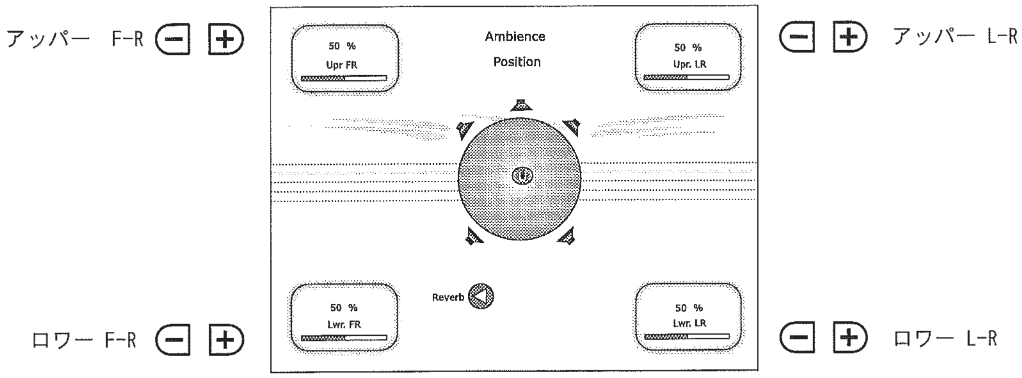
### リバーブ設定

4つのバリューボタンを使って好みのセッティングに調整します。




### 定位設定

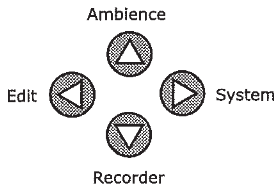
'Position' 表示の▶ ボタンを押し、4つのバリューボタンを押してアッパーとロワー音色それぞれの好みの定位を設定します。



# サウンドエディット

エディット機能は音色パラメーターの調整をする機能です。ここで調整したサウンドはUserサウンドとして記憶でき、いつでも呼び出すことができます。DP1には１２のユーザーサウンドメモリーがあります。

メイン画面からエディットモードに行くには 'Edit' 表示の◀メニューボタンを押します。メニューのラベル名が変わり、TONE、EFX、SETTINGに行くことができます。デュアル・スプリット選択時は ▼ボタンでアッパー、ロワー音色の切り替えができます。

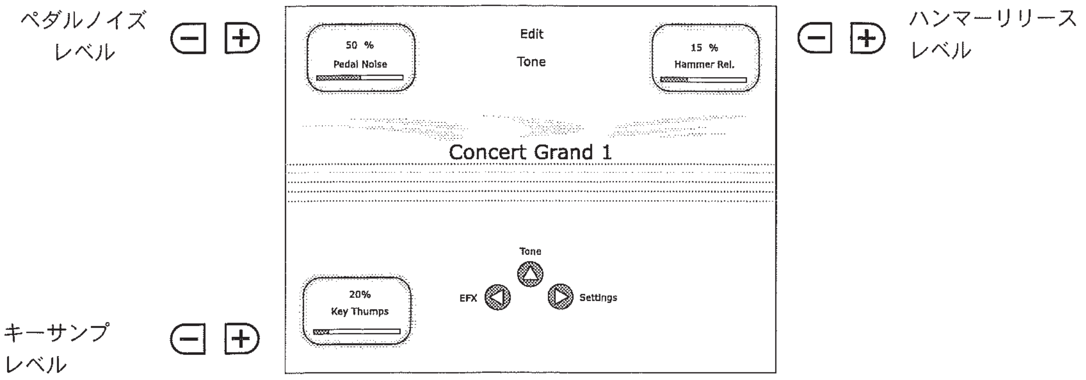



## 1. トーン

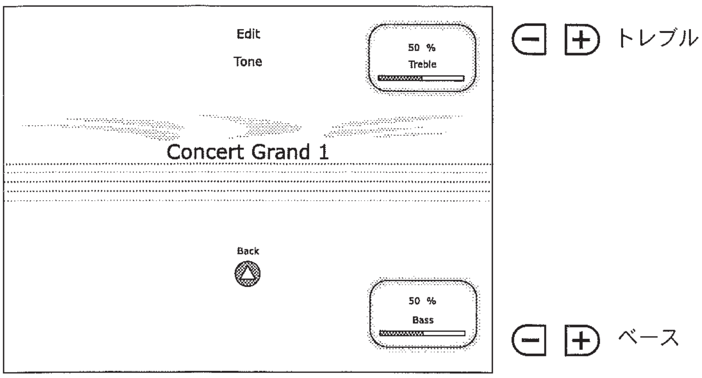
それぞれの音色にはその音色を調整するのに最適なパラメーターが4つ配置されています。
EDIT TONE画面で、メイン画面にあるパラメーターよりもっと深く調整が可能です。
下記はConcertGrand1音色の調整の例です。

### トーンエディット

'Tone'表示の▲メニューボタンを押します。現在選ばれている音色の２番目のグループのパラメーターが表示されます。




'Tone'表示の▲メニューボタンをもう一度押しますと、現在選ばれている音色の２番目のグループのパラメーター表示になります。




パラメーターがさらにある場合は、MORE表示の▼ボタンを再度押すことによって更にパラメーターが表示され、調整ができます。前の画面に行くにはBACKボタンを押し、メイン画面に戻るにはEXITボタンを押します。

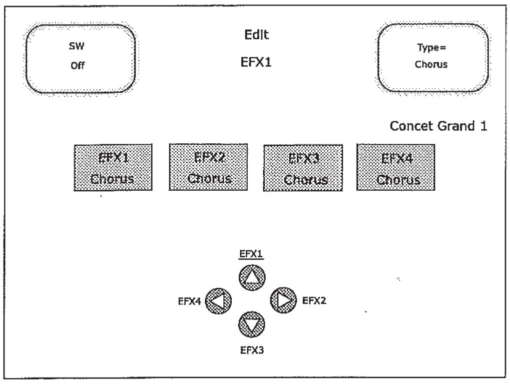
# 2. EFX

それぞれの音色には、様々な音響を実現させるために、最大4つのEFXを挿入することができます。プリセット音色には、リアルさ最大限追求した、それぞれの音色に最適なEFXが選択されております。

## EFXの編集

メニューに入るには、EDIT画面から◀ボタンを押します。
'EFX1' - 'EFX4' が選択できるようなメニューに変わります。どれかを選択すれば、2つバリューボタンでオンオフまたはタイプが変更できます。

EFX オン/オフ ⊖ ⊕



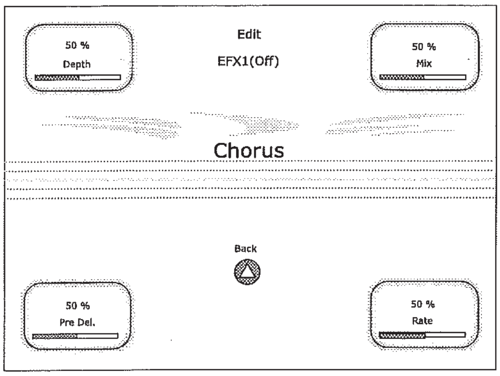

⊖ ⊕ エフェクトタイプ

## より高度なメニュー

さらにエディットを行うにはEFX1-4に対応したメニューボタンを押します。選択されているEFXの調整可能なパラメーターが表示されます。

デプス ⊖ ⊕

⊖ ⊕ ミックス




プリディレイ ⊖ ⊕

⊖ ⊕ レイト

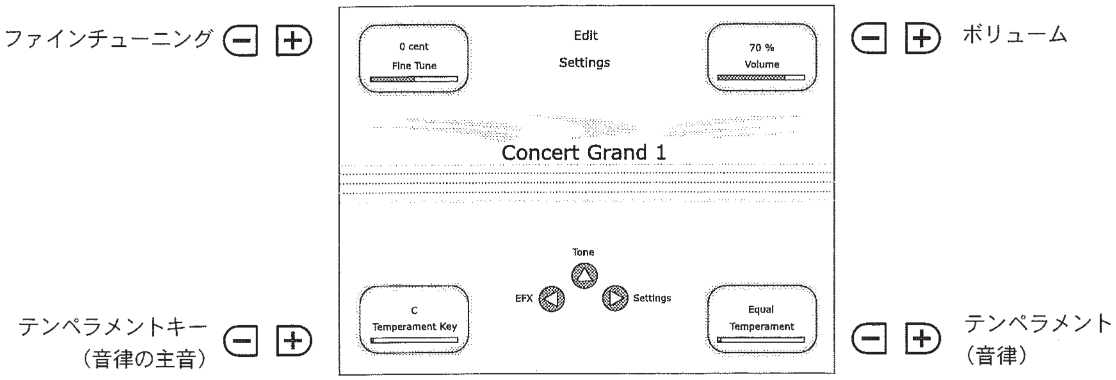
さらにパラメーターがある場合は、MOREが表示され、▼ボタンで、さらにパラメーターエディットができます。
前の画面に行くにはBACKボタンを押し、メイン画面に戻るにはEXITボタンを押します。

# 3. セッティング

セッティングの設定を調整します。

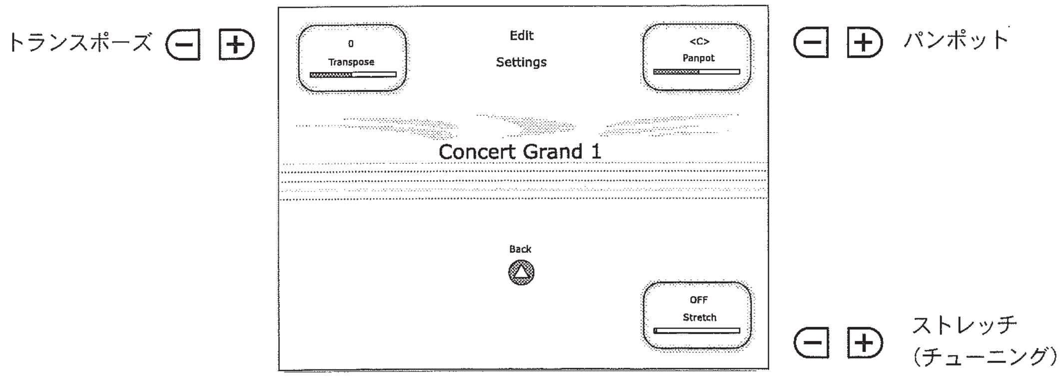
## セッティングの編集

セッティングメニューに入るには、EDIT画面から▶ボタンを押します。4つバリューボタンでセッティングのパラメーターを変更できます。




## より高度なメニュー

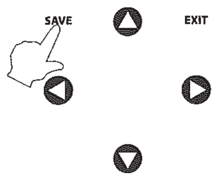
'Settings'表示の▶メニューボタンをもう一度押すと、現在選ばれている音色の3番目のグループのパラメーター表示されます。




パラメーターがもっとある場合は、MORE表示され, このボタンを再度押すことによって更にパラメーターが表示され、調整ができます。前の画面に行くにはBACKボタンを押し、メイン画面に戻るにはEXITボタンを押します。
＊ストレッチチューニングはPIANO1のみに有効です。

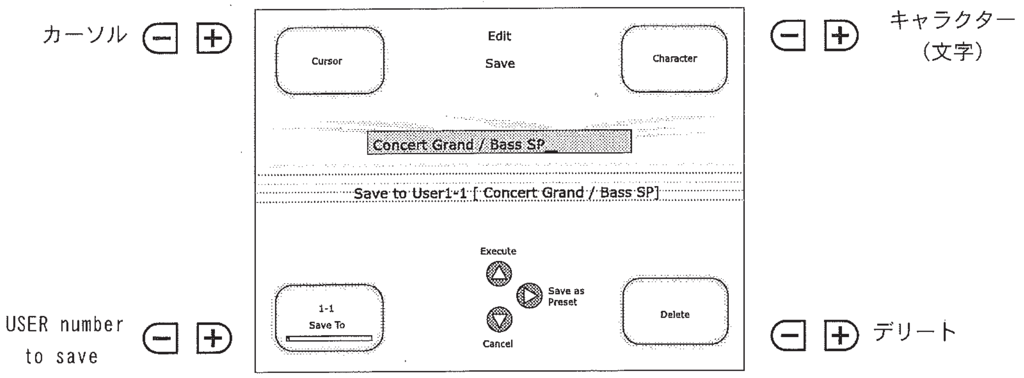
# 4. サウンドのセーブ

変更されたパラメーターはユーザーサウンドとしてセーブ可能で、いつでも呼び出せます。
DP1は12のユーザーサウンドメモリーがあります。
さらに、新たなプリセットとしてもプリセットにも記憶することもできます。




(1)　セーブボタンを押します。

## ユーザーサウンド




(2)　左下のバリューボタンで、セーブしたいユーザーサウンド番号を選びます

(3)　*サウンドの名前を指定します*
ユーザーサウンドに名前をつけれます。左上バリューボタンでカーソル位置を指定し、右上バリューボタンで文字を選択します。或いは、右下バリューボタンで文字の削除ができます。

(4)　名前の設定が終了したら、セーブのため、EXECUTEラベルの▲ メニューボタンを押します。
もしセーブをやめたい時は、Cancelの ▼メニューボタンを押します。
重ね書きする場合は、確認のメッセージがあります。

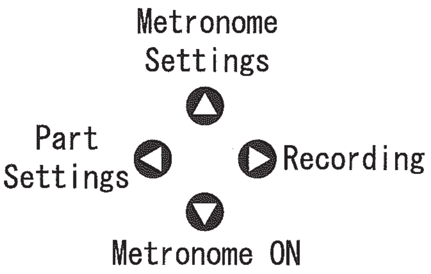
## プリセットとしてセーブ

'SAVE as　Preset'表示のメニューボタンを押すことで、変更した音色を新たにプリセットとして登録することができます。また、システムグローバルページにある"Restore Preset"ボタンで、簡単に工場出荷時の音色に戻すこともできます。

# レコーダー

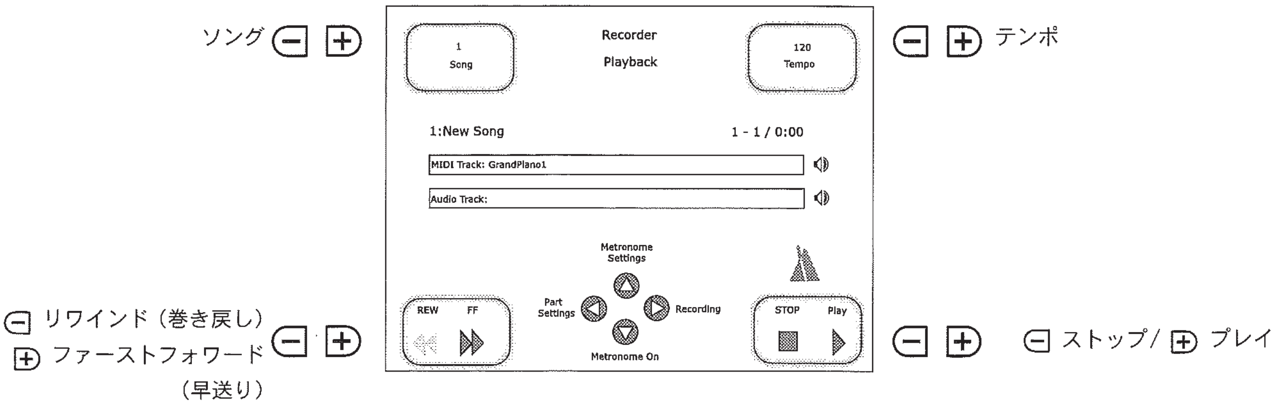
DP1は２トラックで１００ソングまで本体に内蔵可能です。MIDIイベントで録音されるので、音色を変更することができます。また、DP1はMP3やWAVEフォーマットのオーディオデータが再生可能ですので、様々にご活用いただけます。

'Recorder'表示の▼メニューボタンを押します。ラベルはメトロノームセッティング、パートセッティング、プレイバック/レコーディングに変わります。メトロノームのスタートは▼を押します。




## *1. プレイバック*

(1)　*レコーダー画面へ進む。*
'Recorder'表示の▼メニューボタンを押します。下記に示すようなプレイバック画面となります。




画面の説明
中央部分に２つのトラックが示され、上側がMIDIトラック、下側がオーディオトラックを示します
トラック上部右側にある数字は下記を示します。
小節ー拍　/　分：秒
🔊は再生、🔈はミュートを示します。

(2)　*ソングの選択。*
左上バリューボタンでソングを選択します。

(3)　　*ソング再生をスタート*

再生スタートするには右下⊕バリューボタンを押します。再生ボタンがポーズボタンに変わり、ポーズ可能となります。

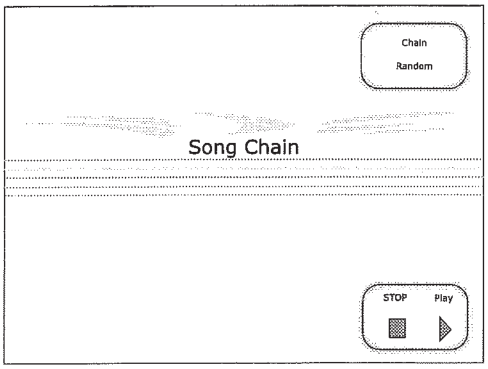
ソングの早送り（FF）、巻き戻し（REW）は左下バリューボタンを押します。

(4)　　*ソング再生のストップ*

右下の⊖バリューボタンで再生が止まります。

## ソングチェーン

ソングナンバー選択でゼロを選択すると、内蔵されている曲の自動再生を行うチェーンモードになります。右上のバリューボタンで順番（Chain）かランダム（Random）で自動再生するかを選択します。右下でチェーンのスタート、ストップを行います。



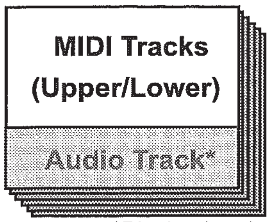

⊖ ⊕ チェーンモード

⊖ ⊕ ⊖ ストップ/ ⊕ プレイ

# 2. レコーディング

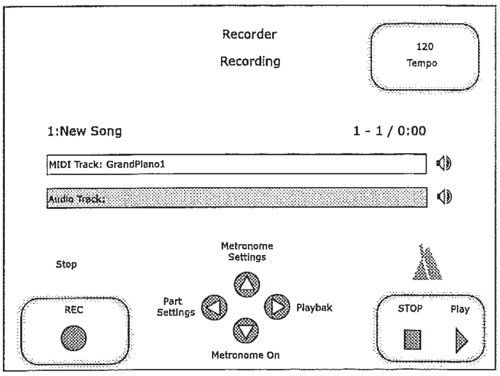
新しくソングを録音するには、プレイバック画面でEMPTYソングを選択します。もし録音済のソングなら、以前のデータが新しい録音に書き換えられます。MP3などのオーディオトラックを再生しながら、アッパーとロワーパートを同時に録音することができ、さらに録音したものをオーディオトラックにミックス（マージ）することもできます。

**Internal Song (100Songs)**




*Playback only

(1)　*RECモードに入ります*
'Recording'表示の▶メニューボタンを押します




⊟ ⊞ テンポ

レック（録音） ⊞

⊟ ⊞ ⊟ストップ/⊞プレイ

(2)　*録音スタンバイ*
録音の準備が完了したら、左下 ⊞ ボタンを押します。
もしそのパートが既に録音済みならば、新しい録音に書き換えられます。

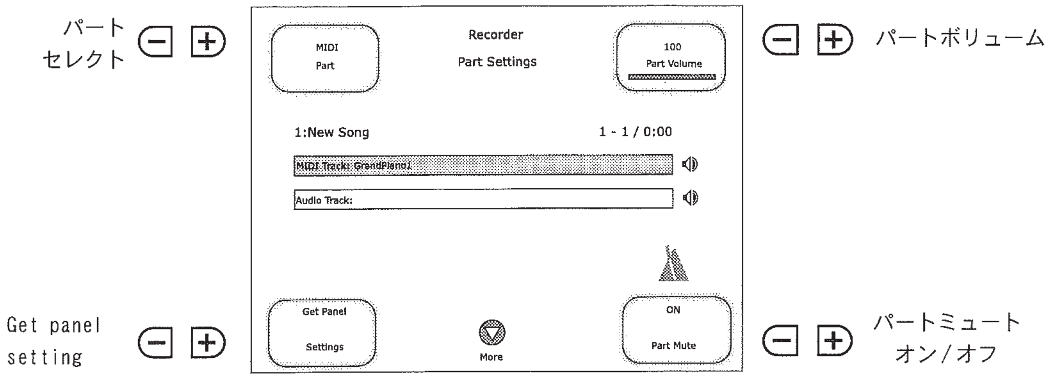
(3)　*録音の開始*
演奏を始めます。最初の音が弾かれたときから自動的に録音を開始します。
或いは、鍵盤を弾く代わりに、右下の ⊞PLAYボタンでも録音が開始されます。この場合は演奏するまでに休みが挿入されます。

(4)　*録音の停止*
録音を停止したい時は、右下の ⊟ ボタンを押します。
セーブを行わないとソングは記憶されませんのでご注意ください。

# 3. パートセッティング

録音が終わっても、ソングの音量や音色は自由に変更できます。

(1)　*パートセッティングに入ります。*
'Part Settings'表示の◀メニューボタンを押します。




(2)　*録音されたパートを選びます。*
左上バリューボタンで録音済のパートを選びます。

(3)　*録音パートの音量を変えます。*
右上バリューボタンで録音済のパート音量を調整します。

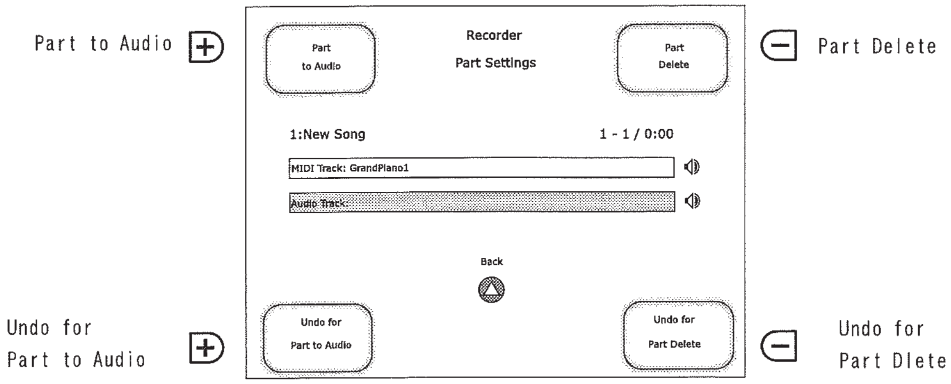
(4)　*録音済のパートをミュートします。*
右下バリューボタンでパートのミュートオンオフを設定します。
🔊 は再生、🔈はミュートを示します。

(5)　*パネル状態の獲得* Get panel setting
左下バリューボタンで、現在のパネルのセッティング状態を反映させることができます。
もう一度押すと元に戻ります。

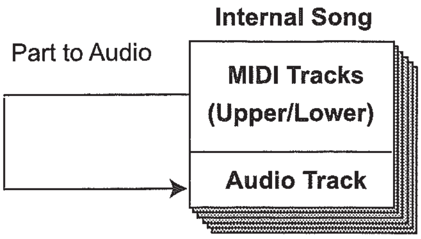
# 4. オーディオパートとパート削除

録音が終わるとパートのデータはMIDIデータからデジタルオーディオトラックへレンダー（変換）できます。
不要な場合は、削除もできます。

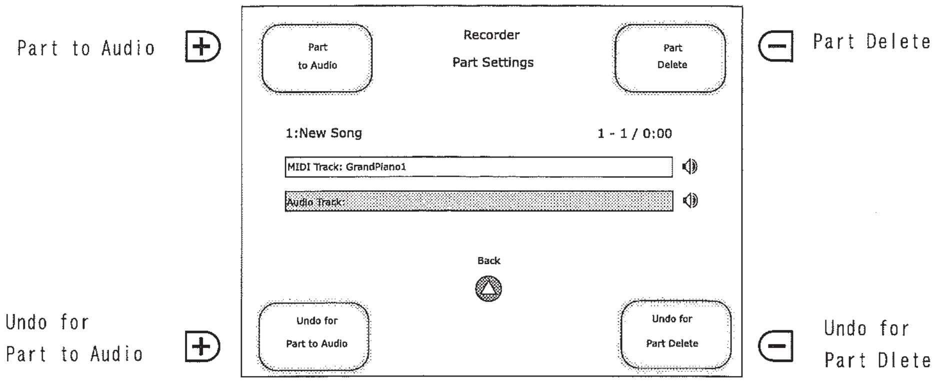
(1)　*パートオーディオ・削除の画面に行きます。*
パートセッティング画面で'More'表示の▲メニューボタンを押します。



(2)　*オーディオデータへの変換* Part to Audio
左上 ⊞ボタンを押すと、MIDIトラックデータをデジタルオーディオトラックへレンダー（変換）します。
すでにオーディオトラックにデータがある場合はそのデータにミキシング（マージ）されます。
変換が行われるとMIDIトラックはクリアされ、新しい録音を可能とします。




***オーディオ変換のやり直し*** Undo for Part to Audio
オーディオデータを元のMIDIデータに戻すには、左下⊞ボタンを押します。



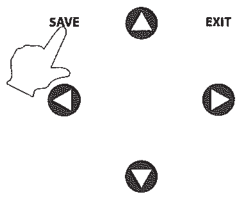

(3)　*パートの削除*　Part Delete
右上 ⊞バリューボタンを押すと、選択されたパートが削除されます。

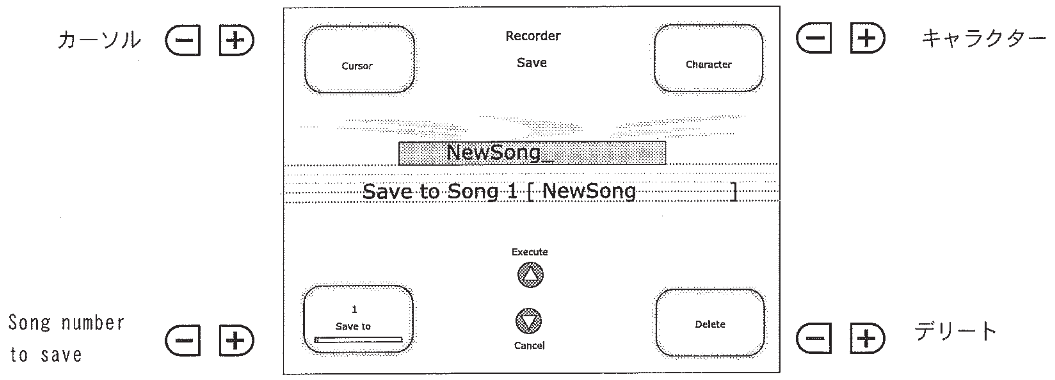
**パート削除のやり直し**Undo for Part Dlete
削除したパートを元に戻すには、左下の⊞ボタンを押します。

# 5. ソングのセーブ

録音が終了したら、１００個のソングメモリーへセーブできます

(1)　セーブボタンを押します。
セーブするソングの番号を表示します。




(2)　左下バリューボタンで、セーブしたいソングナンバーを選択します。Song number to save

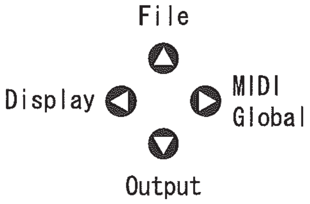
(3)　*ソングの名前を設定します。*
ソングに名前をつけれます。左上バリューボタンでカーソル位置を指定し、右上バリューボタンで文字を選択します。或いは、右下バリューボタンで文字の削除ができます。

(4)　名前の設定が終了したら、セーブのため、'Execute'表示の▲メニューボタンを押します。
もしセーブをやめたい時は、'Cancel'の▼メニューボタンを押します。
重ね書きする場合は、確認のメッセージがあります。

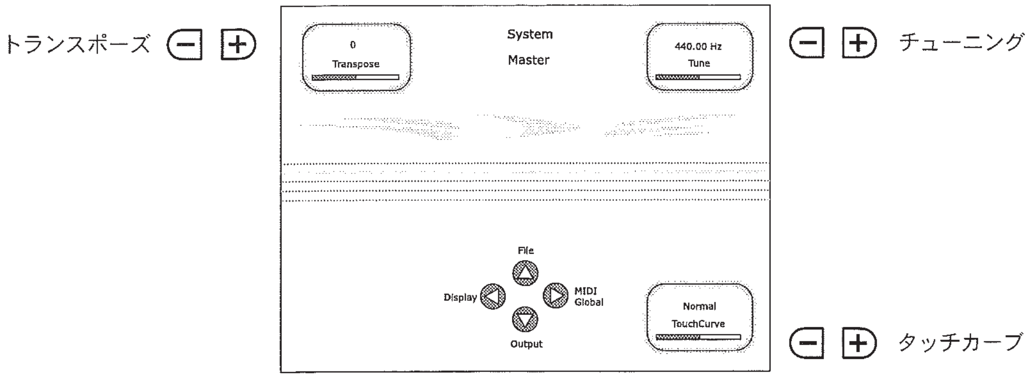
# システム

このモードは、DP1のシステムパラメーター設定用です。システムメニューは、DP1全体に有効でシステムモードからぬけると自動的に記憶されますので、メモリーの作業は不要です。

システムモードに入るには、'System表示の ▶ボタンを押します。メニューは下記の表示となります。




## 1. マスターパラメータ

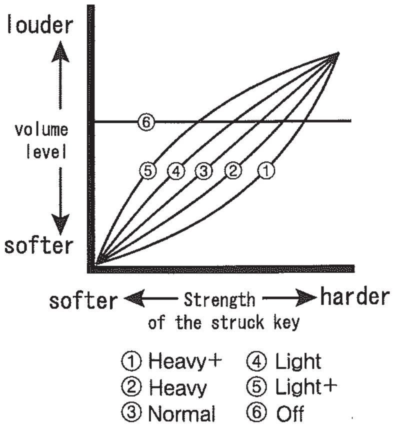



### チューン

DP1の全体チューニングを設定します。ステップは０．５Hzです。

### タッチカーブ

このパラメーターは鍵盤のタッチレスポンスカーブを選択します。
また、DP1では、6種類のタッチカーブに加え、演奏する人の力に最も適したタッチカーブを作るユーザータッチカーブ作成機能を搭載しています。




ヘビー＋
ヘビー　：強いタッチで弾かないと大きな音が出ません。
指の力の強い人向きのタッチカーブです。

ノーマル　：アコースティックピアノと同程度のタッチで音量が変化します。

ライト
ライト＋　：弱いタッチで弾いても大きな音がでます。
小さなお子様や、オルガンプレーヤー向きのタッチカーブです。

オフ　：タッチの強弱に関わらず一定の音量で発音します。

ユーザー１
ユーザー２　：ユーザーが入力したタッチによりタッチカーブが作成されます。

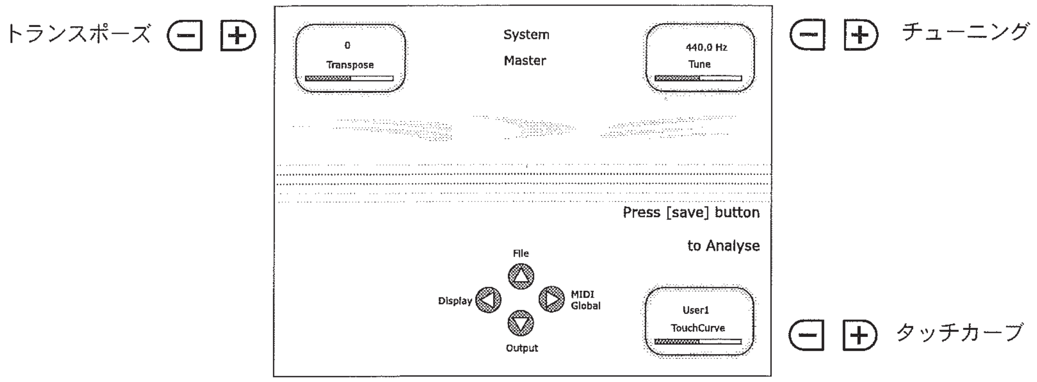
## トランスポーズ

トランスポーズ機能はDP1のキーを半音単位で上げたり下げたりします。

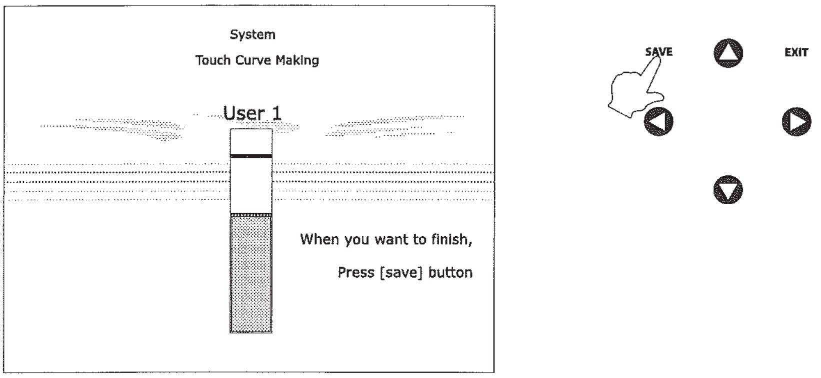
# 2. ユーザータッチカーブの作り方

タッチカーブはアクションと音色間の主たるものです。ユーザータッチカーブ作成機能を使うことで、個人の演奏スタイルに細かく合致したタッチレスポンスをカスタムします。

(1)　右下バリューボタンで、User1又はUser2のタッチカーブを選びます。



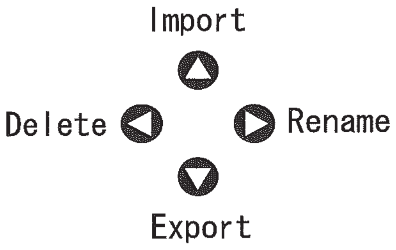

(2)　タッチカーブ作成を始めるには、セーブボタンを押します。
DP1が演奏スタイルを分析するために、適当な鍵盤を使って弱打から強打まで弾いて下さい。
指の力やタッチが反映するように、通常の演奏とおなじように演奏してください。ボリュームを最小にした方が良い結果が出るかもしれません。赤い線は最大値を、青い線は平均を示します。




(3)　弾き終わったら再度セーブボタンを押します
演奏に基づきDP1は演奏スタイルを解析し、カスタムタッチカーブを作成します。この新しいタッチカーブは自動的にセーブされ、新しく再度作成されるまで記憶されています。

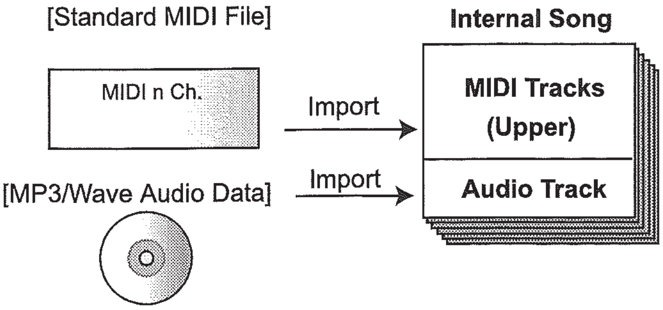
# 3. ファイル操作

ファイル操作メニューへはシステム画面で"FILE"表示の▲メニューボタンを押します。表示は下記となります。



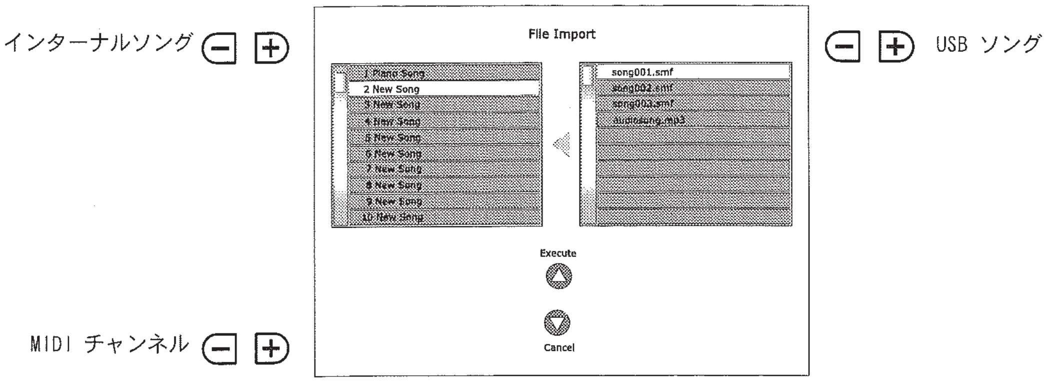

## ファイルインポート

接続されているUSBデバイスから外部ソングをインポートできます。DP1はMP3、Wave、SMFファイルのソングデータフォーマットが読めます。
それぞれのDP1のソングはMIDIトラックとデジタルオーディオデータで成り立っています。インポートされたソングは下記のようにロードされます。




(1) ファイルメニューで' "Import'表示のある ▲メニューボタンを押します。
ファイルインポート画面が現れます。

(2) *USBソングを選びます。*
右上バリューボタンでUSBソングを選びます。



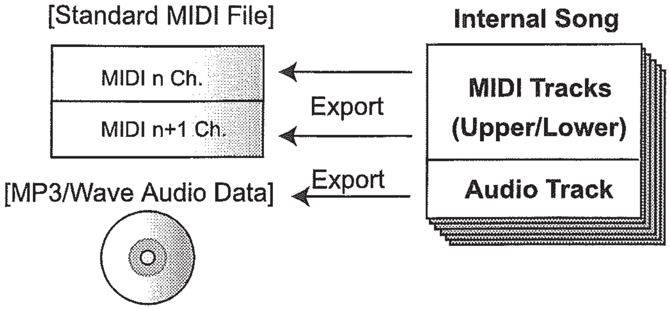

(3) *内部ソング番号を選びます。*
左上バリューボタンで転送したい内部ソング番号を選びます。

(4) MIDIチャンネルの選択。
SMFファイルの場合、右下バリューボタンでインポートしたいチャンネルを選びます。

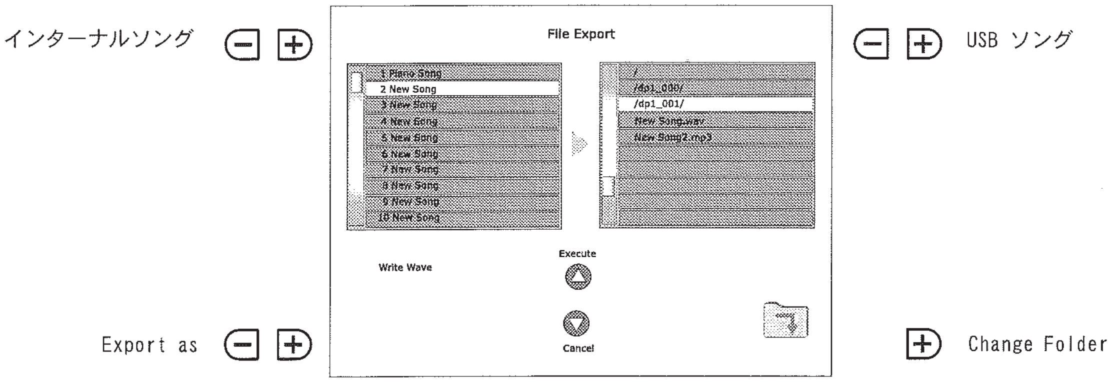
(5) 'Execute'表示の▲ボタンを押します。

# ファイルエクスポート

セーブされたソングは、MP3, Wave、SMFフォーマットで接続したUSBデバイスに書き込めます。MIDIトラックはSMFファイルとして、オーディオトラックはMP 3かWaveフォーマットでエクスポートされます。




(1)　ファイルメニューで 'Export'表示のある▼ メニューボタンを押します。
ファイルエクスポート画面が現れます。




(2)　*ソングを選びます。*
左上バリューボタンで転送したい内部ソング番号を選びます。

(3)　*転送先のファイル名は自動的に作成されますが、重ね書きに限り、転送先のソング番号を選びます。*
右上バリューボタンでUSBソングを選びます。

(4)　フォルダーの変更 Change Folder
右下のバリューボタンでフォルダーの選択が可能です。

(5)　*ファイルフォーマットの選択* Export as
左下バリューボタンでファイルフォーマットの選択をします。オーディオトラックではMP3かWaveを、MIDIトラックではMIDIチャンネルを選びます。

(6)　'Execute'表示の ▲ボタンを押します。

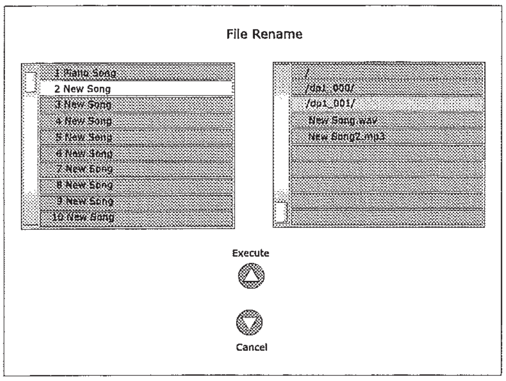
# ファイル名の変更

この機能は内部ソング又は外部ソングのファイル名を変更します。

(1)　ファイルメニューで" 'Rename' 表示のある▶メニューボタンを押します。
ファイルリネーム画面が現れます。

(2)　*名前を変更したいソングを選びます。*
左上バリューボタンで変更したい内部ソング番号を選びます。
右上バリューボタンで変更したい外部ソング番号を選びます。

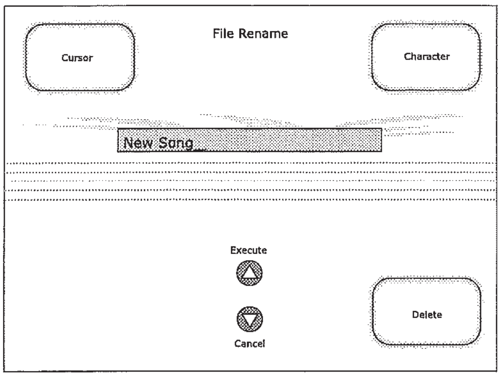
インターナルソング ⊖ ⊕




⊖ ⊕ USB ソング

(3)　'Execute'. 表示の▲ボタンを押します。
名前の変更では、左上バリューボタンでカーソル位置を指定し、右上バリューボタンで文字を選択します。
或いは、右下バリューボタンで文字の削除ができます。

カーソル ⊖ ⊕




⊖ ⊕ キャラクター（文字）

⊖ ⊕ デリート

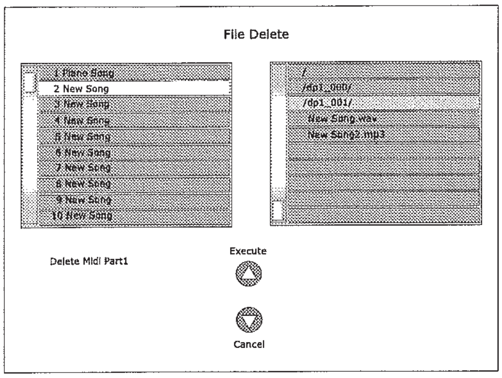
(4)　'Execute'表示の▲ボタンを押して転送します。

# ファイル削除

この機能は内部ソング又は外部ソングのソングを消します。

(1)　ファイルメニューで'Delete'表示のある ▶メニューボタンを押します。
ファイルデリート画面が現れます。

インターナルソング ⊖ ⊕　　USB ソング ⊖ ⊕




select part ⊖ ⊕

(2)　*削除したいソングを選びます。*
左上バリューボタンで変更したい内部ソング番号を選びます。
右上バリューボタンで変更したい外部ソング番号を選びます。

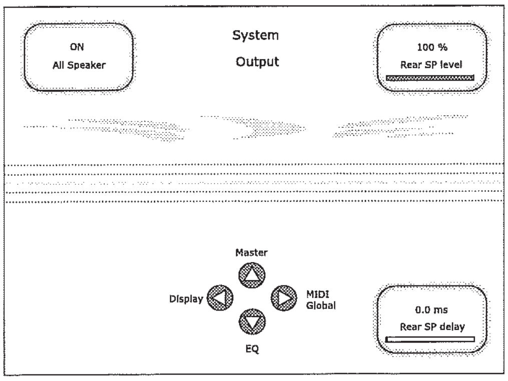
(3)　select part　*パート選択。*
削除したいパートを左下バリューボタンで選択します。

(4)　'Execute'表示の▲ボタンを押します。

# 4. アウトプット設定

このメニューから外部入力や出力の設定が変更可能です。

オールスピーカー ⊖ ⊕　　リアースピーカーレベル ⊖ ⊕




リアースピーカーディレイ ⊖ ⊕

*リアスピーカーレベル*
外部リアスピーカーレベルを調整します。

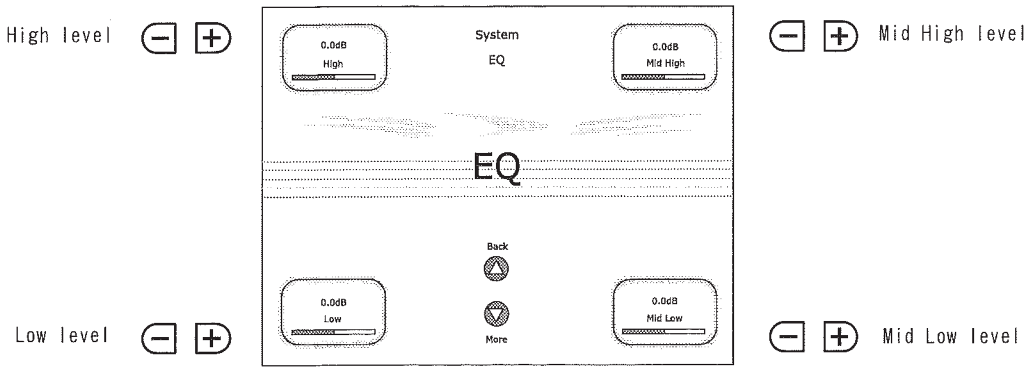
*リアスピーカーディレイ*
外部リアスピーカーのディレイタイムを調整します。

*オールスピーカー*
DP1に搭載されている全スピーカーのオンオフを行います。

# EQ設定

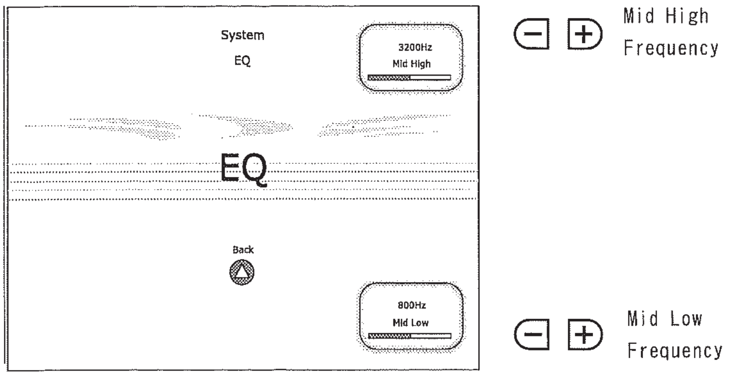
EQページに進むには'EQ'表示のある▼メニューボタンを押します。

i. High
ii. Mid High
iii. Mid Low
iv. Low
それぞれの周波数のレベルを調整します。

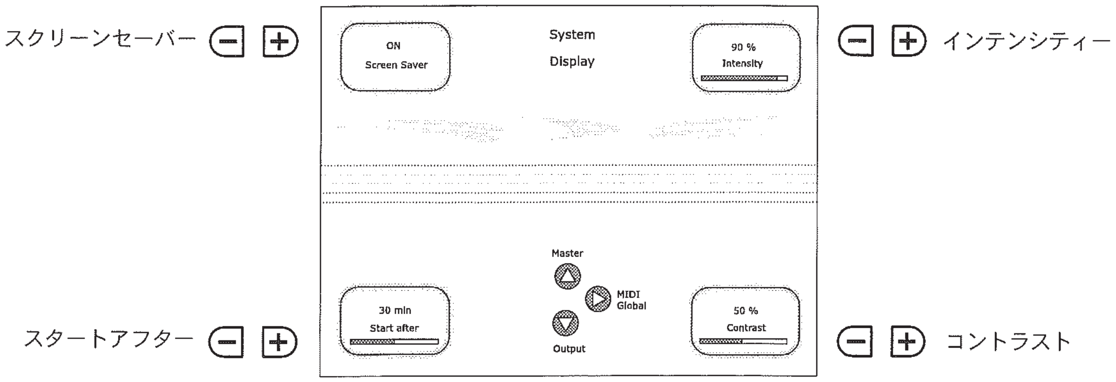



さらにEQパラメーターを変更するには'More'表示の▼ボタンを押します。

v. Mid High Frequency
vi. Mid High Frequency
MIDHIGHとMIDILOWの周波数を調整します。MIDHIGHとMIDILOWはパラメトリックEQのように働きます。



# 5. ディスプレイ設定




*インテンシティー*

ディスプレイの強さを調整します。

*コントラスト*

ディスプレイのコントラストを調整します。

*スクリーンセーバー*

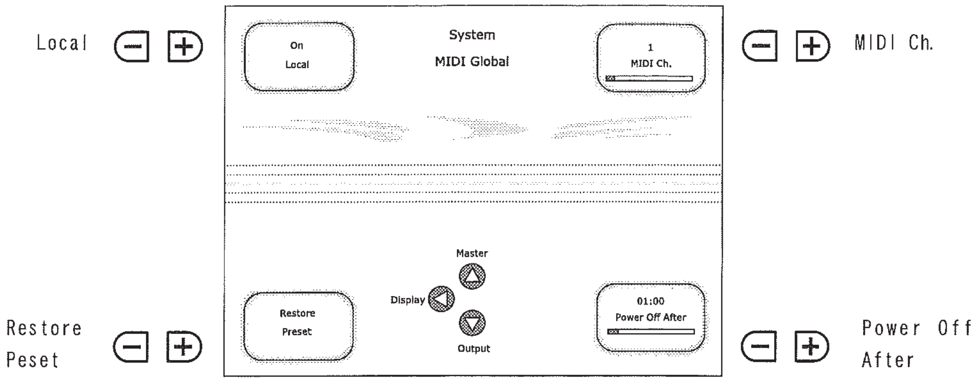
スクリーンセーバーのオンオフを設定します。

"スタートアフター"での設定されている値でアクティベーター以外のコントロールパネルが消えます。

*スタートアフター*

スクリーンセーバーが始まる時間を設定します。

# 6. MIDI Global




MIDI Ch.

MID送信受信のチャンネルを設定します。

PowerOffAfter

DP1は鍵盤蓋を閉じなくても、ここで設定する時間一切触らなければ自動的にパワーオフします。

自動パワーオフ設定時間を設定します。(時間：分)

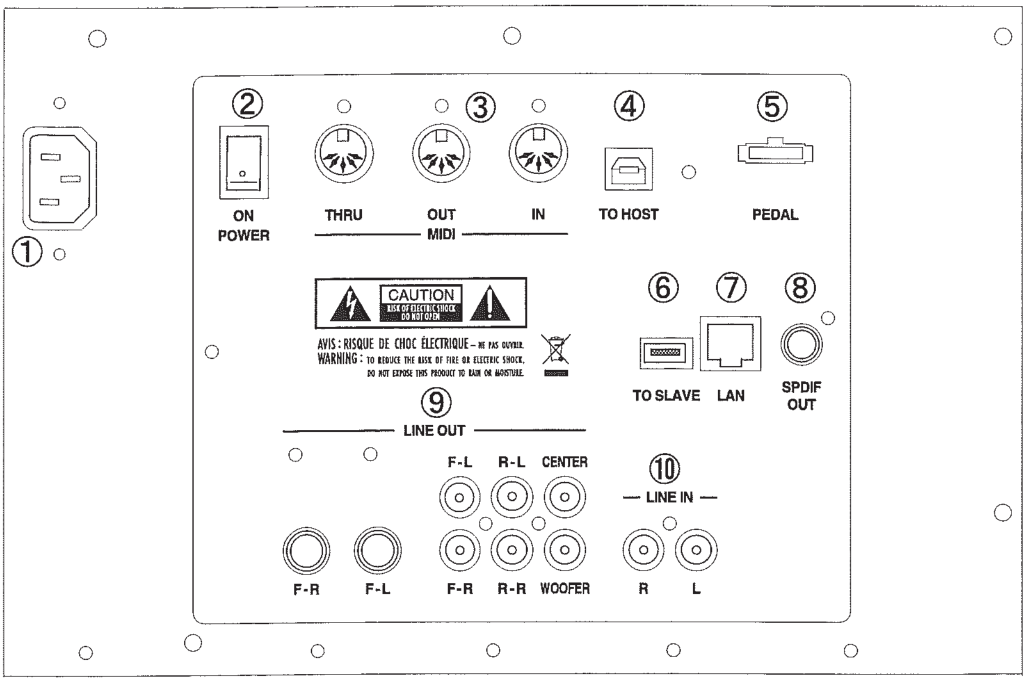
Restore Preset

現在選択されているプリセットだけを工場出しサウンドに戻します。

ローカル Local

MIDIローカルオンオフを設定します。通常使用ではオンにセットします。

## ◇ 外部端子




1. 電源コネクター
   同梱電源ケーブルをここへ接続します。

2. 電源スイッチ
   電源をオン／オフするスイッチです　この電源スイッチはスタンバイ電源を制御します。

3. MIDI ジャック
   MIDI 音源やMIDI シーケンサーなどの外部MIDI 機器とDP1 を接続するのに使います。

4. ToHost ジャック
   パーソナルコンピューターと接続するのに使用します。

5. ペダルジャック
   同梱されているペダルを接続するジャックです。

6. TO SLAVE ジャック
   USBデバイスを接続するジャックです。

7. LAN ジャック
   将来への予備端子で、機能しません。

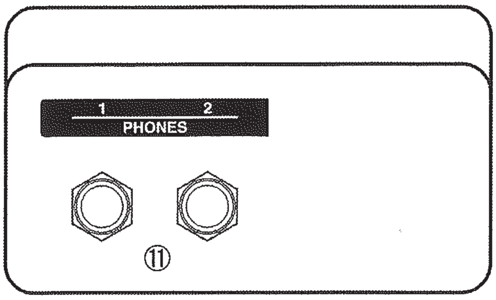
8. SPDIF ジャック
   デジタルオーディオ出力用のジャックです。

9. ラインアウトジャック

これらの出力は、DP1を５．１ｃｈサラウンドシステムへ接続するのに使います。

10. ラインインジャック

外部のオーディオ機器（CDプレーヤーなど）をDP1に接続するのに使います。




11. ヘッドホンジャック

鍵盤の左下に2つのヘッドホン用ジャックがあります。

# ◇ 主な仕様

■ 鍵　盤　　88 鍵　AWA グランドプロⅡ　木製鍵盤（AWA：アコースティックウェイティッドアクション）
■ 音源　　PCM シンセシス PC エンジン
■ 音　色　　ピアノ１、ピアノ２、Ｅピアノ１、Ｅピアノ２、ストリング、ベース
■ 音色数　　３６
■ ユーザーサウンド　　１２
■ パネル　　アクティベーティングタッチコントロールシステム
■ ディスプレイ　　６．４インチ VGA
■ アンビエンス　　５．１チャンネル
■ レコーダー　　１００ソング、MIDI トラック＋オーディオトラック
■ ファイルフォーマット　MP3、WAVE, SMF フォーマット
■ 効　果　　２３
トレモロ、フェイザー、バイ・フェイザー、ディープ・フェイザー、ワウ・ペダル、
ロータリー・スピーカー、エンハンサー、モジュレイテッド L/R、スキャナー・ビブラート、
ステップ・フランジャー、コーラス、クォード・コーラス、スペース・コーラス、
アンサンブル、ディレイ、ダック・ディレイ、ロング・ディレイ、テープ・ディレイ、
グレイン・ディレイ、ホール・リバーブ、フランジャー、デチューン、
デフューザー・ディレイ
■ 音律　　7
平均律(Equal)　純正律＜長調＞(Pure major)　純正律＜短調＞(Pure minor)
ピタゴラス音律(Pythagorean)　中全音律(Meantone)
ヴェルクマイスター第 III 法(Werkmeister)、キルンベルガー第 III 法(Kirnberger)

■ タッチカーブ　　6 種、ユーザー２ 種
■ その他の機能　　ボリューム、デュアル、スプリット、メトロノーム、チューニング、トランスポーズ
■ ペダル　　ダンパー（8 段階）、ソフト、ソステヌート
■ 外部端子　　ヘッドホン（2）、
MIDI (IN, OUT, THRU), LINE IN[RCA] (L, R), LINE OUT[1/4] (L, R),
LINE OUT[5.1channel, RCA] (F-R, F-L, R-L, R-R, CENTER, WOOFER),
SPDIF OUT, USB (TO HOST, TO SLAVE), LAN, PEDAL

■ 出　力　　Front 40w*2, Rear 20W*2, Center 40W, Woofer 90W
■ スピーカー　　2cm(Dome)x4, 5cmx2, 12cmx3, 16cmx1
■ 消費電力　　160W
■ 仕上げ　　黒艶仕上げ
■ 寸　法　　1455 x 998 x 925 mm (WxDxH)（譜面台未装着時）
■ 重　量　　119 kg（椅子は含まず）

■ 同梱品　　本体／譜面台／ 椅子／ 電源コード／ 取扱説明書（本書）／
保証書／ご愛用者カード／アフターサービスと音楽教室のご案内

仕様は予告無く変更します。

# ◇ MIDI Implementation Chart

[DIGITAL PIANO]
Model: KAWAI DP1

Date : September 2006
Version : 1. 0

| ファンクション | | 送 信 | 受 信 | 備 考 |
|---|---|---|---|---|
| ベーシック チャンネル | 電源ON時<br>設定可能 | 1 ～ 16<br>1 ～ 16 | 1 ～ 16<br>1 ～ 16 | |
| モード | 電源ON時<br>メッセージ<br>代用 | モード3<br>×<br>***** | モード3<br>× | |
| ノート ナンバー | 音域 | 0 - 127<br>***** | 0 - 127 | |
| ベロシティ | ノート. オン<br>ノート. オフ | ○ 1-127<br>× | ○ 1-127<br>× | |
| アフター タッチ | キー別<br>チャンネル別 | ×<br>× | ×<br>× | |
| ピッチベンド | | × | × | |
| コントロール チェンジ | 64<br>66<br>67 | ○<br>○<br>○ | ○<br>○<br>○ | ホールド１（ダンパー）<br>ソステヌート<br>ソフト |
| プログラムチェンジ 設定可能範囲 | | ○<br>****** | ○<br>0-47 | (下記備考参照) |
| エクスクルーシブ | | × | × | |
| コモン | ソングポジション<br>ソングセレクト<br>チューン | ×<br>×<br>× | ×<br>×<br>× | |
| リアル タイム | クロック<br>コマンド | ×<br>× | ×<br>× | |
| その他 | ローカルON／OFF<br>オールノートオフ<br>アクティブセンシング<br>リセット | ×<br>×<br>×<br>× | ×<br>×<br>×<br>× | |
| 備 考 | | Sound Button: PC#:<br>Piano1 0-5<br>Piano2 6-11<br>E. Piano1 12-17<br>E. Piano2 18-23 | Sound Button: PC#:<br>String 24-29<br>Bass 30-35<br>User1 36-41<br>User2 42-47 | |

KAWAI

KPSZ-0197